

地域ニーズの把握はどうか 可能なところから取り組んでいる



みずの さち
水野 佐知 議員

問 地域のニーズは、どのように把握しているか。具体的な町から見た「こぶしのさと」の工夫、取り組み、役割はどうか。

答 渡辺 企画調整室長

佐賀北部活性化推進協議会の参加の他、集落活動センターやあったかふれあいセンターとの意見交換を通じ直接、意見をいただいている。

また、施設使用者には、接客対応の際に感想を伺う等、改善点の把握に努めている。役場への意見も、指定管理者の株式会社ファウンディングベースと調整を図り対応している。運営再開当初より、食事メニューや入浴料の見直し、物販コーナーの設置など、様々な意見要望を可能な所から改善を重ね、サービスの向上に取り組んでいる。

問 こぶしのさとを中心とした地域の賑わいづくりについては、どうか。

答 渡辺 企画調整室長

近隣施設との連携により共同で創り上げていくことで、地域の賑わいづくりに繋がると考えている。

その第一歩として、9月14日に、こぶしのさと主催による敬老の日イベントが開催された。子ども向けのお菓子まきやボッチャ体験会など、交流イベントを実現することができた。

今後は、集落活動センターにも協力を検討しており、イベントの定期的な開催に向け、話し合いを進める予定。今回の反省点を踏まえ、より良い取り組みとなるよう、町も必要な支援を行ってきたい。



地域の土産物のコーナー



敬老の日のイベント(ボッチャを楽しむ人々)

補聴器購入助成

今後の課題はどうか

連絡先を聞くなど対応

問 申請数が0件で相談数が10件ということだが、今後の課題についてはどう考えるかを問う。

答 野村 健康福祉課長

相談数も少なく、申請書を渡した方も、今後申請が出されるかどうか不明。また、これまでは申請書を渡しても連絡先等は聞いておらず連絡がでなかった。今後は、申請書を取りに来た際に連絡先を聞き、長期間申請のない方については理由を聞くなど、課題の把握に努めたい。

【その他の質問】
・熱中症について